

# 大阪府立千里高等学校 SGH実践報告会

2019.2.9.

- 1 -

## 1. 概要 1.2. 本校SGH研究開発の概要②

- 対象生徒
  - 1年：国際文化科の生徒全員
  - 2年：国際文化科の生徒全員  
(当初は人権・労働・環境に関連する探究講座所属生徒)
  - 3年：国際文化科のうち英語選択科目TS・GS履修生徒

- 5 -

## 課題研究①

1. テーマが社会課題に <教科から社会課題へ>
  - ・研究の社会的意義が明確に
  - ・企業・NGOとの連携が可能に
2. 外部の目・声の導入 <社会に開かれた教育>
  - ・指導に対するフィードバック→改善・発展のアイデアが広がる
  - ・社会の現状について教員の認識が広がる
  - ・生徒は指導教員以外の評価も受ける→学術的・社会的な評価を付与できる

- 20 -

## 我々の「今後の課題」

1. 資金  
「SGH後も持続可能な形にする」ための方策を具体化する。
2. PDCA  
「ボトムアップで評価と改良のアイデアを話し、作り上げる」機会・仕組みを作る。
3. 経験の文書化  
「課題研究指導の押さえどころとタイミング」を整理、校内外で使える形にする。
4. 生徒の研究  
「実地調査とアクション」で主体的に社会と繋がることをさらに推奨する。

- 24 -

1. 概要：学校・SGH研究開発
2. 外部講師との連携
3. 課題研究を深めるための工夫
4. 4年間の成果・課題

- 2 -

## 1. 概要 1.2. 本校SGH研究開発の概要③

- SGHに関わる授業
  - 1年：『国際理解』(1単位・通年)  
『探究基礎』(1単位・後期・2コマ連続・1クラス2展開)
  - 2年：『探究』(2単位・通年・2コマ連続・2クラス6展開)
  - 3年：『トピック・スタディズ』(通年2単位・選択)  
『グローバル・スタディズ』(通年2単位・選択)

- 6 -

## 課題研究②

3. 指導の共通の枠組みが整備 <個人から共通へ>
  - ・成功・失敗の共有
  - ・評価基準の洗練 (⇒研究報告書p.63)
4. 校内・校外での発表の増加 <切磋琢磨の機会>
  - ・発表に向けて教員も力を入れる→他の教員への波及効果
  - ・優れた発表から刺激を受ける→生徒の意欲の向上

- 21 -

## 1. 概要 1.1. 学校の概要

- 1967年 普通科高校として創立
- 1990年 国際教養科2学級を併置
- 2005年 国際科学高校に再編  
(国際文化科・総合科学科クラス)  
→課題研究の科目を設置  
<探究基礎・探究>  
<科学探究基礎・科学探究>
- 2015年 SGH指定 (現在4年目)

- 3 -

## 1. 概要 1.2. 本校SGH研究開発の概要④

- SGHに関わる授業外の実践
  - 1年：国際問題に取り組む大学院生による講演会  
Glocal フィールドワーク研修  
国際交流協会・モスク・コリア国際学園訪問、国際人権
  - 2年：企業訪問研修  
多様性・働き方・フェアトレード・国際協力・環境  
ニューヨーク研修  
移民の歴史、学校・社会・企業における多様性尊重

- 7 -

## 学校全体の指導への影響

1. 「主体的対話的で深い学び」を指導する授業スタイルの経験者の広がり
  - ・教科指導への波及期待
  - ・昨年12月課題研究以外の授業で研究授業
2. 教科間連携の試みの進展
  - ・課題研究と教科をつなぐ
  - ・教科と教科をつなぐ
3. 学校外の組織・人との繋がり
  - ・教育のための「資源」を広く見通せる

- 22 -

## 1. 概要 1.2. 本校SGH研究開発の概要

- 目的・目標・連携機関・3年間の指導の流れ
- 対象生徒
  - 1年：国際文化科の生徒全員
  - 2年：国際文化科の生徒全員  
(当初は人権・労働・環境に関連する探究講座所属生徒)
  - 3年：国際文化科のうち英語選択科目TS・GS履修生徒

- 4 -

## SGH 4年間で得たものは？ 課題は？

- 19 -

## 事業評価

1. 評価指標の設定 (⇒研究報告書p.28)
2. 継続したデータ収集
  - ・目標に基づいた教育デザイン
  - ・生徒が伸ばせた力を教員が意識

- 23 -